

あいち生物多様性戦略2030

～持続可能な社会づくりに向けて～



表紙の写真

茶臼山
(豊根村)

茶臼山高原
(豊根村)

名城公園
(名古屋市中区)

大高緑地
(名古屋市緑区)

シデコブシ
(東谷山)

水田(古代米)
(半田市内)

ホンドキツネ
(知多市内)

アオバセセリ
(春日井市内)

ノスリ
(弥富野鳥園)

エナガ
(名古屋市緑区)

ユリカモメ
(田原市内)

ハッコウトンボ
(海上の森)

ニシキキン
カメムシ
(東三河地域)

ヤマトオサガニ
(藤前干潟)

表紙の写真は、2019年度に実施した「あいち・なごやの自然・生きもの」フォトコンテストの受賞作品(14作品)です。

「人と自然が共生するあいち」を目指して

愛知県は、750万人を超える人々が暮らす日本一の産業集積を誇る大都市圏であるとともに、豊かな水資源を活かした全国有数の農業県でもあります。また、温暖な気候と山・川・海・里からもたらされる多様で豊かな自然の恵みを背景にして、多くの生きものの命を育むとともに、私たちもその一員として、暮らしや経済、文化、伝統を継承・発展させてきました。

本県では、COP10で採択された「愛知目標」の達成に向けて、この10年間に県全域を網羅する9地域で、生態系ネットワーク協議会を設立し、市民団体、事業者、市町村、教育機関などが連携し、地域の実情に合わせた取組を積極的に進めてきました。また、生物多様性に取り組む世界の自治体に呼びかけ、地域の取組から世界の流れをつくる活動を行ってきました。

近年の新型コロナウイルスをはじめとした新型感染症は、森林破壊などの人間活動による影響も一因と考えられています。また、ヒアリをはじめとした外来生物対策、希少な動植物の保全、鳥獣害への対応など生物多様性に関する様々な課題に私たちは対応していく必要があります。

「あいち生物多様性戦略2030」は、今後10年間の生物多様性に係る各施策を実施する上での羅針盤となるものです。今回の計画では、あいち方式2030として、県全域で多様な生物の生息生育空間を確保する「生態系ネットワークの形成」と、すべての主体の行動に生物多様性を組み込む「生物多様性主流化の加速」を計画の柱に据えています。そして、これを支えるべく外来生物対策の強化、推進プラットフォームの構築といった10項目の重点プロジェクトを設定するとともに、各分野における個別の行動計画を定めています。

自然環境の保全や脱炭素社会の形成といった環境問題の解決と経済の発展は、一体のものであり、持続可能な社会の実現は、世界の潮流となっています。私たちは今、2030年のSDGsの目標達成に向けた分岐点に立っています。

県は、「人と自然が共生するあいち」の実現に向けて、様々な主体が連携してオールあいちで、着実に取り組んでいきます。県民の皆様には、この戦略の理念を共有していただき、県内の豊かな自然を守り、育み、そして、次世代に引き継いでいくため、共に考え、県民一人ひとりが積極的に行動していただくことを切に願っています。



愛知県知事

大村 秀 章



西中野渡船(一宮市 木曾川)



ヤリタナゴ(碧南海浜水族館)



亀崎潮干祭(半田市)



グリーンベルト(知多市)

